

La Movado

Fondita en 1951 N-ro 758 aprilo 2014

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ōsaka-hu, 561-0802

KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
Tohurō minami 2-8-7, Dazaihu-si, Hukuoka-ken, 818-0105

ESPERANTO-LIGO de TYŪGOKU kaj SIKOKU
Oogonzan-tyō 7-15, Minami-ku, Hirosima-si, 734-0041

ENHAVO

第 62 回関西エスペラント大会.....大会実行委員会 1-2
語尾なし単語の使い方 (16) 相川節子 2
楽しい作文教室 (34) 塚本猛 3
Kajero libervola: "Sekura socio" plena de "suspektindaj homoj" KAWAI Yuka 4
書評: "Flugorango Rakontas" 津田昌夫 5
対訳: 「先生の顔」(3) 竹久夢二/沖恵明 6-7
『日本エスペラント運動人名事典』.. ふじもと・たつお 7
ヨーロッパ旅行記 (5) 市川晋平 8
第 101 回日本大会 La 2-a Informilo 9-12
Japanaj Malnovaj Rakontoj より (4) 海の水はなぜ鹹い 13-14
Salono: 國井兵太郎、松本緑、木谷奉子 14-15
Vortaro por lernantoj (139) Laŭlum 16
ワン・ワールド・フェスティバルに出展 木元靖浩 16
La Movado: 第 47 回エスペラントセミナー他 17
Vortkruca enigmo/ 作文教室課題 18
Mikspoto/ 作文教室成績 /KLEG 事務局だより 19
編集ノート 20

La 62a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo okazos en Himeji 31a majo - 1a junio

第 62 回関西エスペラント大会

5月31日(土)～6月1日(日) 姫路市国際交流センター

初夏の姫路で、エスペラントの過去・現在・未来を語ろう!



今年の関西エスペラント大会は、46年ぶりに姫路で開催。いま、はりまエスペラント会が中心になって、準備を進めています。

まず、「歴史と文化のまち姫路にエスペラントの風を!」のスローガンのもと、姫路市民にエスペラントのことを知ってもらうためにと、Informiloで既報のように、次の番組を無料で公開します。



1日目は、森川和徳さんの入門講座。
2日目は、橘弘文大阪観光大学教授の日本語講演「柳田国男とエスペラントの人びと」とアレクサンドラ綿貫さんのエスペラント講演「現代ポーランドに与えた日本文化の影響」(日本語通訳あり)、そして歌手の野田淳子さんのミニコンサート。

これらを広報するためのチラシをカラー印刷で作成し、配布を始めました。目標は100人です。

関東大会と共同で招待するアジアの青年エスペランティストは、関東エスペラント連盟の堀泰雄さんのご尽力によって、インドネシアのレザ・パーレヴィー (Reza Pahlevi) さんに決まりました。インドネシア・エスペラント協会に選ばれたレザさんは、メダンの北スマトラ大学でコミュニケーションを学ぶ21歳の男子学生で、もちろん、インドネシアのエスペラント運動について話してもらう予定です。



この大会には、久しぶりに大勢の子どもたちが集まる予定で、「子どもの交流広場」を企画しています(本号 p.15 に、木谷奉子さんの呼びかけ)。

学習番組は、相川節子さんの「語尾なし単語いろいろ」と藤巻謙一さんの「エスペラント独習のすすめ」(藤巻さんの中級独習書が近刊予定)です。また、

竹森浩俊さんと森川和徳さんの教養講座「大会ミニ大学」が今年も開講されます。

初心者の皆さんにも楽しんでいただけるものとして、忍岡妙子さんに新聞紙を使った「S-ro Papero」(本誌 10 年 1 月号)の指導をお願いしていますが、これにはもちろん外国人にも参加してもらいます。

交流活動の情報交換の場として、KLEG 組織部と国際部が中心になって、「国際交流アジア分科会」を企画しています。ここでは、高槻エスペラント会が中国常州市エスペラント会との約 30 年続いている交流の歴史とその近況を報告する予定です。

さらに、『日本エスペラント運動人名事典』の編者・後藤齊さんがはるばる仙台から参加される予定で、後藤さんには人名事典に関連した講演を依頼しています。

姫路につどい、エスペラントのことを話し合いませんか。そして、日頃の活動の成果を紹介し合い、経験を交換しましょう。また、エスペラントによる国際交流の可能性について話し合い、エスペラントの歴史と現在、そして将来を語り合いましょう。



◎会場の姫路国際交流センターがある「イーグレひめじ」は、世界文化遺産の姫路城を臨むところにあります。白鷺城の別名をもつ姫路城は、天守閣の大修理が終わり、工事用の素屋根と周囲の覆いが外されつつあります。大会の頃には、大天守の一部が再び姿をあらわすようです。会場からの眺望—世界文化遺産の城郭全体が初夏の新緑の海に浮かぶ姿—をぜひご覧ください(写真は、イーグレひめじの 5 階屋上から、3 月 1 日撮影。右端が工事中の天守閣)。

◎姫路は、大河ドラマ「軍師官兵衛」の地元として観光客が増えています。宿泊の予約は早めに。

◎3 月 5 日現在の参加申し込みは 196 人。

◎5 月 1 日以降、参加費が値上りします。

(大会実行委員会)

初心者のための

語尾なし単語の使い方 (16)

相川節子

本来副詞 (25) **nur** (前回の続き)

nur は **ne** と同じように、単語だけでなく、単語群も対象になります。

Pingvenoj vivas nur en la suda hemisfero.

(ペンギンは南半球だけに生息している)

La Dua Bulteno estos sendita nur post aliĝo al la Universala Kongreso.

(Dua Bulteno は世界大会に申し込んでから送られてきます)

また、**nur** は時日に関して「やっと～になって」という意味で使われることがあります。

Mi mendis la libron antaŭ unu monato, kaj nur hodiaŭ mi ricevis ĝin.

(その本を 1ヶ月前に注文したが、今日やっと受け取った)

nur を使う表現では、**ne nur ~ sed ankaŭ ~** も覚えておくと便利です。

Ne nur malnovaj temploj, sed ankaŭ modernaj fabrikoj troviĝas en Kioto.

(京都には古い寺社だけでなく、近代的な工場もあります)

Esperanto estas utila ne nur en eksterlanda vojaĝo, sed ankaŭ en Skajpo kaj Fejsbuko.

(エスペラントは海外旅行だけでなく、スカイプやフェイスブックでも役に立ちます)

本来副詞 (26) **pli** と **plej**

ju と **des** の項ですでに **pli** の例文を紹介していますが、ここで改めて **pli** と **plej** を説明します。入門講座で必ず習う「比較級」と「最上級」を表す副詞です。原則として、形容詞や副詞を修飾します。

Rusio estas pli vasta ol Kanado.

(ロシアはカナダより広い)

Hirundo flugas pli rapide ol pasero.

(つばめは雀より速く飛ぶ)

時々お目にかかるのが **pli da ~** という表現です。

Daŭris forta pluvo kaj pli da akvo fluis en la rivero.

(激しい雨が続き、その川にはより多い水が流れた)

[この項続く]



①夕方の薄明かりの中を散歩した。

【訳例 1】Ni promenis en la duonlumo de la vespero.(ikona)

【訳例 2】Ni promenis en vespera duonlumo.(水渡)

【訳例 3】En vespera duonlumo mi promenis.(Eiko)

薄明かり：duonlumo, krepusko (日沈状態時)。

この課題では主語を明示していませんでしたが、mi は 14 に対して、ni は 3 で圧倒的に mi が勝っていました。前回、前々回の「彼ら」を主人公にして考えると、mi と ni で別の物語ができそうです。

duonlumo の duon- は「二分の一、半分」の意味の接頭辞です。duontaga (半日の) のように使ったり、duonkuirita (生煮えの)、duonfermita (半開きの) や duonpatrino (継母) でも使います。

promeni (散歩する) は、気晴らしや健康のために移動することで、vagi (さまよう) は目的も無く移動することです。似てはいますが、promeni の代わりに vagi を使うと、「薄暗がりの中でうろろろしていた」ように取られるかもしれません。

②川沿いの道がやっと見える。

【訳例 1】Oni apenaŭ povas vidi la vojon laŭ la rivero.(kiri, alfa)

【訳例 2】La vojo laŭ rivero estas apenaŭ videbla.(ヒー坊, ikona, CA)

【訳例 3】La vojo laŭ rivero apenaŭ videblas.(AG)
やっと：apenaŭ。

「やっと見える」は、なんとか見えるという意味ですから apenaŭ (やっと、ようやく) が使えます。「見える」の部分は、訳例のように oni を主語にして povi vidi を使う、あるいは vojo を主語にして esti videbla を使うこともできますが、対応を間違えないように注意しましょう。oni は、課題 1 と同じ mi、ni にしても良いと思います。

訳例 3 では、esti videbla を動詞の videbli として使っています。動詞不定形 vidi を主語として epli を使う場合は、apenaŭ eblas vidi la vojon のような形になるでしょう。

③もうすぐ桜の季節だ。

【訳例 1】Baldaŭ venos la sezono de sakuroj.(CA)

【訳例 2】Baldaŭ venos la sezono de sakuro.(M.H., AG)

【訳例 3】Sezono de sakurfloroj tuj proksime atendas sian tempon.(Dalpengji)

【訳例 4】Ni estos baldaŭ en la sezono de sakuroj.(alfa)

桜：sakuro。

「もうすぐ」は、あまり時間がたたないうちに、という意味ですから、baldaŭ (ほどなく、少し間をおいた後で) が使えます。訳例 3 は tuj (すぐ、ただちに) を使っていますが、時間ではなく場所として扱い、「すぐ近くで待っている」ということで時間的にも間があくことを表現しています。このように baldaŭ は post mallonga tempo であり、時間についてのみ使用しますが、tuj は位置関係を表す場合にも使うことができます。なお、proksima (近くの) は時間・空間・一般的な関係でも使えます。

訳例 1、2、3 は sezono を主語にしていますが、訳例 4 のように ni を主語にするのも良いですね。

④川の兩岸に桜の花が咲いている。

【訳例 1】Sakurofloroj floras sur ambaŭ flankoj de la rivero.(CA)

【訳例 2】Floras sakuroj sur ambaŭ river-bordoj.(alfa)

【訳例 3】Sakuraj floroj floras ĉe ambaŭ riverbordoj.(ikona)

【訳例 4】Nebulas ambaŭ bordoj de la rivero kovritaj de sakurfloroj.(Dalpengji)

桜の花：sakurfloro。

「川の兩岸」には bordo (岸) や flanko (側、横) が使えます。訳例 2、3 の ambaŭ riverbordoj だと「両方の川岸」ですが内容的には同等でしょう。訳例 1 の sur ambaŭ flankoj は、ambaŭflanke でも良いと思います。

sakuro は樹木の種類ですが、訳例 2 のように floroj 無しで「桜が咲いている」でも良いと思います。訳例 4 ではさらに、nebuli (かすんでいる) により花が咲いている様子を表現しています。「川の兩岸は桜花で覆われてかすんでいる」とは、「はながすみ」でしょうか。題意を超えた表現ですね。

成績は p.19、6月号の課題は p.18。

要約：夜道でひとり泣く子は放置するのが正解？—警察から送られてくる「不審者情報メール」はどこまで適切か？不審者扱いをおそれて、ちょっとした親切を行うことにさえためらってしまう現代の大人たち。「ひとを見たらずいと思え」、そんな社会にはしたくないけれど…。

Mi havas filon en la 6-a lernojaro de elementa lernejo. Kiam li eniris en la lernejon, mi registrigis mian retadreson al la loka polico laŭ ĝia rekomendo. Por kio? – por ricevi averto-mesaĝojn pri “suspektindaj homoj”, kiuj malbonintence alproksimiĝas al lernantoj.

Iun tagon en januaro 2014, sur interreto vekis ardan diskuton unu artikolo sur socia retejo Twitter de iu viro. Li rakontis jene. Sur vespera vojo li trovis 7-8jaraĝan knabinon piedirantan sola kaj ploranta. Li komence intencis helpi ŝin, sed rezignis tion. Li timis, ke liaj alproksimiĝo kaj alparolo al la knabino estos rigarditaj kiel suspektindaj agoj. Anstataŭe li telefonis al polico. La policano petis lin akompani ŝin ĝis la plej proksima policejo. Sed li rifuzis tion, dirante, ke iu policano tuj venu surloken, kaj foriris. Li antaŭtimis mis-arestadon.

Ĉu lia ago estis justa? Ĉu lia antaŭtimo estis trafa? Aŭ ne? Mi supozas, ke hodiaŭaj japanoj 40kelkjaraĝaj kaj pli junaj povas kompreni lian heziton. Ankaŭ mi ne facile nomas lian agon troa memdefendo.

Mi mem ricevas el polico averto-mesaĝon en ĉiu 2-a aŭ 3-a tago. La mesaĝoj ĉefe temas pri “suspektinda alparolo”. Inter ili fakte troviĝas raportoj pri homoj danĝeraj al lernantoj. De tempo al tempo tamen troviĝas okazoj en kiuj estas dubinde, ĉu la raportita persono vere estis preta je krimo.

Surrete troviĝas eĉ jenaj ekzemploj kaj similaj, kiuj ŝajnas esti tute ne problemaj: “Viro demandis al lernanto, kie estas la stacio.” “Viro 2014.4

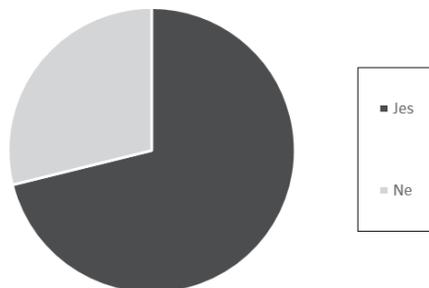
salutis lernantojn, kaj ridaĉis”.

Se ni konsideras, kion polico kaj lernejoj instruas al lernantoj, ni devas konkludi, ke hodiaŭ vira plenaĝulo preskaŭ ne povas eĉ demandi geknabojn pri vojo sen risiko de miskompreno. Polico kaj lernejoj instruas al lernantoj, ke ili ne bezonas respondi al demando, se la alparolanto estas nekonata. Kiam mi estis elementa lernejarano, polico kaj lernejo simple admonis nin, ke ni ne akompanu nekonaton. Kiam iu nekonato demandis min pri vojo, mi bonvole respondis al la demando... eble tio estas rakonto.

Mi povas kompreni la fonon de la elekto de la viro supre menciita. Mi tamen kuraĝas diri, ke alproksimiĝi, alparoli kaj helpi infanon estas devo de plenaĝuloj, malgraŭ ebleco de miskompreno. La infano estas malpli forta estaĵo ol la plenaĝulo. Se diri pri la ĉi-supra kazo, la knabino estis elmetita al plia danĝero de “vere suspektindaj homoj” post la foriro de la viro ĝis la alveno de policano. Mi bedaŭras, ke li ne rekte helpis ŝin.

Samtempe mi deziras, ke polico ne elsendu averto-mesaĝojn tiel facile. Se la infanoj senĉese ricevadas avertojn bazitajn sur malfido al aliaj, kiel aspektas la socio en liaj okuloj? Jam la tempo venis, kiam ni, plenaĝuloj, devas pensi serioze, kiel fari la socion, en kiu ni ne plu bezonas la frapfrazon: “Ne fidu nekonaton.”

Ĉu vi helpos plorantan infanon kontraŭ ebleco esti miskomprenita kiel suspektinda homo?



(el iu reta enketo en januaro 2014)



新刊案内・旧刊再読

“Flugorango Rakontas:

Fabelo por infanoj kaj por aliaj homoj”

津田 昌夫 (兵庫県)

「わたし、わたしの名前はオレンジ。オレンジ、わたしの。たぶん、わたし、あなたのオレンジになるかも？ わたしは、見事に実っているわ、優しいお母さんの、オレンジの木に。そして、水、太陽、空気を吸っているの。そして、お母さんは、母なる大地から水を吸っているわ。わたしの周りには何百ものわたしの友だちが実っているの。とても楽しそうに、みんなはおしゃべりしているの。」

これは、哲学者、ヨハン・ガルトゥング博士が書いた絵本の出だしである。「理屈っぽくなった小学生、すなわち、高学年の小学生にも、なんとか紛争がこの世からなくならないかと、いつも考えている大人にもおすすめ！ イスラムの人たちにも読んでもらい、和平について考えてもらいたい」と、わたしは、芦屋エスペラント会のホーム・ページの読書紹介で、この本についての「ひと言コメント」に書いた。このような本に出会えるのは、わたしがエスペラントを勉強しているおかげ。「平和学」という分野があることをわたしは知らなかった。

ザメンホフの孫とでも、心のなかで思っている、世の中のエスペランティストの大多数は、いつも、この世をもっと平等で住み良い世界にしたいと考えている。折あらば、貢献したいと考えていて、例えば、ガルトゥングさんがノルウェーで子供向けとして、つたない、挿絵もまずい絵本を出すと、すぐ、かの地のエスペランティストの何人かが、世界中のエスペランティストに知ってもらおうと、けなげにも売れ行きも考えず、出版しようとする、そのことにわたしはうれしくなってしまう。みんなが、あのザメンホフの詩句の一節、Obstine antaŭen! La nepoj vin benos. (La vojo) を信じているのだ、と。

「ええ、わたしたちオレンジは話しができますのです。人間たちほどおしゃべりではないのですけど。ほんとに、人間はおしゃべりですね。」と、お話は続く。じつは、オレンジは空を飛ぶことができ、仲

間同士で情報をやり取りし、人間たちの行動を観察しているのだ。このあたりのいきさつは、『星の王子さま』の前半で、王子さまがいくつかの惑星を訪れて、奇妙なことをしている大人たちを観察するくだりに似ている。空飛ぶオレンジが人間たちに、「だって、君らの役割は、人間に食べられることで、それでお終いじゃないか。」と言われ、「いいえ、わたしたちは人間たちを喜ばせることがうれしいのです。それに、種からまた六百もの実をつける木が育つのですわ。」と、答えるあたりは、『葉っぱのフレディ』（レオ・バスカーリア著）を連想させる。しかし、本題は、「二人の前にオレンジが一つしかない。どうする？」という、サンデル教授の白熱教室を思わせる質問に、どう答えるかである。平和学はどんな答えを出すのだろうか？

二人の少年の場合なら、けんかになり強いほうが手に入れるだろう。少女たちの場合なら、より大声でより長く泣いたほうが手に入れるかも。外交官の場合は、棚の上にオレンジを放置したまま、それがしなびてしまうのにもかまわず、議論に明け暮れる。弁護士は、オレンジの木にいちばん近いところに住むものが所有する、と結論づけ... と、博士はお話を続ける。しかし、オレンジが願っているのは、自然との共生を図った、もっと平和的な解決法だ。人間たちがいなくなってしまったのに、わたしたちが残っていたって... と。

あらためて、読み返してみても、アート紙とはいえ、40 頁に満たない薄っぺらな絵本でこの価格、しかもハチャメチャな、本文の理解の助けになるとはいえ、ボローニャ国際絵本原画展で目にするような素敵なのとは正反対の挿絵は、博士の息子の弁護士、アンドレアスさんの手になるが、愛書家にお薦めの本だ、とは言いにくい。せめて、エスペラントの初学者に役立てばよいのだが、スウェーデン語からの翻訳の、アニタさんの少し硬い文体では、そうとも言いがたい。とはいえ、中東のエジプト、パレスチナ、シリア、さらには、スーダンでの紛争はいつ解決するかお先真っ暗。近くは、オレンジではないが、竹島とか、北方領土とかを目の前にして、どうしたらいいのか、いつかは解決するのかといった問題が厳として存在する。ここは、この絵本を参考にして、心優しいオレンジさんの智慧をかりたいものである。

先生の顔

(3)

竹久 夢二

3

つぎの日も、そのつぎの日も、葉子は森先生を橋の上で待合して学校へ行った。けれどノートの事については何にも仰有(おっしゃ)らなかつた。葉子もそれをきこうとはしなかつた。

光子は葉子が先生と一緒に学校へ来るのが妬(ねたま)しくてならなかつた。その週間も過ぎて、つぎの地理の時間が来た。

葉子が忘れようとしていた記憶はまた新しくなつた。葉子は、おずおずと先生の方を見た。先週習つたところは幾度となく復習して来たから、どこをきかれても答えられたけれど、先生は葉子の方を決して見なかつた。そして光子に向つて、「巴里(パリ)はどこの都ですか」とお訊(たず)ねになつた。すると「佛蘭西(フランス)の都であります」と光子が嬉(うれ)しそうに答えた。

地理の時間が終ると、運動場(うんどうば)のアカシヤの木の下へいって、葉子はぼんやり足もとを見つめていた。何ということなしに悲しかった。

「葉子さん」そう言って後(あと)から葉子の肩を軽く叩いた。それは葉子と仲好(なかよし)の朝子(あさこ)であつた。朝子は葉子の顔を覗(のぞ)きこんで「どうしたの」ときいた。

「どうもしないの」そういって葉子は笑つて見せた。

「そんなら好いけど。何だか考えこんでいらっしやるんですもの、言つて好いことなら私に話して頂戴(ちょうだい)な」

「いいえ、そんな事じゃないの、私すこし頭痛がするの」

「そう、そりゃいけないわね」

葉子はじつと思入(おもい)って朝子を見つめて「朝子さん」



desegnis GOTO Miwa

Vizaĝo de la instruistino

(3)

de TAKEHISA Yumezi
tradukis: OKI Keimei

3

Ankaŭ en la sekvanta tago, ankaŭ du tagojn poste, sur la ponto *Yôko* atendis la instruistinon kaj kune iris al la lernejo. Sed la instruistino diris nenion pri la kajero. Ankaŭ *Yôko* ne demandis ŝin pri ĝi.

Mituko ne povis ne senti ĵaluzon kontraŭ *Yôko* pri tio, ke ŝi kun la instruistino venas al la lernejo. Pasis tiu semajno, kaj venis la sekvanta lernohoro de geografio.

La memoro, kiun *Yôko* volis forgesi, renoviĝis en ŝia koro. Ŝi timeme rigardis en la direkto al la instruistino. Kvankam ŝi estis preta respondi ajnan demandon pri la parto de la lernolibro de geografio, kiun ŝi lernis en la lasta semajno, pro tio ke eĉ multfoje ŝi relernis tiun parton, la instruistino neniam direktis sian rigardon al ŝi. Kaj la instruistino demandis *Mituko*: “Kies landa ĉefurbo estas Parizo?” Do, *Mituko* kun ĝoja mieno respondis: “Ĝi estas la ĉefurbo de Francio.”

Post la fino de la lernohoro de geografio *Yôko* iris sub akacion en la lerneja ludejo kaj nebulanime fiksas sian rigardon ĉirkaŭ siaj piedoj. Ŝi ial sentis malĝojon.

“*Yôko*,” iu vokis kaj batetis ŝultron de *Yôko* de malantaŭ ŝi. Tiu estis *Asako*, bona amikino de *Yôko*. *Asako* enrigardis ŝian vizaĝon kaj demandis: “Kio okazis al vi?”

“Nenio.” *Yôko* respondis kaj montris rideton al ŝi.

“Se nenio ĝenus vin, mi ne zorgus. Sed vi ial mienis tia, ke vi enpenŝiĝas pri io. Se la afero ne estas sekreto, bonvole rakontu tion al mi.”

“Ne, ne estas tiuspeca afero. La kapo iom doloras al mi.”

“Ĉu vere? Tio estas malbona.”

Yôko enpenŝiĝis profunde kaj, fikse

「え」
「あなた森先生お好き？」
「ええ、好きよ、大好きだわ」
「あたしも好きなの、でも先生は私のことを怒って
いらっしゃる様なの」
「そんなことはないでしょう」

葉子は、朝子に心配の種を残らず打明けた。それから二人は森先生のやさしいことや、先生は何処(どこ)の生れの方だろうという事や、先生にもお母様があるだろうかという事や、もし先生が病気をなされたら、毎日側(そば)について看病してあげましょうねという事や、もしや死んでしまっても、先生のお墓の傍(そば)に、小さい家をたてて、先生のお好きな花をどっさり植えましょうという事などを語り合った。(続く)

よくもまあ!

—『日本エスペラント運動人名事典』(2013)を
めぐりながら—
ふじもと・たつお(京都府)
この、ひつじ書房刊、柴田巖・後藤齊=編、峰芳隆=監修、という本を特別割引価格で購入し、目下、楽しんでいるところである。

〈よくもまあ!〉これだけ調べあげたものだ、と物故者でない私など、感心するばかりである。見出し語は故人のみであるが、〈人名索引〉(p.593~p.651)を見ると、生存者も出てくることがわかる。ひとのことはさておき、自分こと藤本達生を見ると、こう書いてある。

伊東幹治…46、梅棹忠夫…76、桂枝雀(2代)…139、(中略)三浦信夫…473—。中略したところには、5人が入っているが、要するに、これらの人びとと藤本のかかわりあい、この本のミソなのである。これだけの人物が出てくると、いったい、エスペランティストとは何ぞや、と改めて思わざるを得ない。中略のところには、(ページは略)シンプキンズ、坪田幸紀、中野忠一郎、平井征夫、松原言登彦の名が入っている。英語系の人の場合、Simpkinsは〜ズと記すのかも知れないが、私の知るかぎり、彼はシンプキンズであった。他の人はともかく、三浦信夫とは一体、何者かと思われるかもしれない。

ここで全文引用したいところであるが、この本
La Movado 758

rigardante Asako, diris: "Asako!"

"Kio?"

"Ĉu vi ŝatas la instruistino Mori?"

"Jes, mi ŝatas, tre ŝatas ŝin."

"Ankaŭ mi, sed ŝi ŝajnas kolera kontraŭ mi."

"Mi ne kredas tion."

Yôko konfesis tutan aferon, pri kio ŝi afliktiĝis. Kaj la du interparolis pri tio, ke "La instruistino estas tre afabla. En kiu loko ŝi naskiĝis? Ĉu ankaŭ la instruistino havas sian patrinon? Se la instruistino fariĝos malsana, ĉiutage ili restu apud ŝi kaj flegu. Se la instruistino mortos, ili konstruu dometon apud ŝia tombo kaj plantu multajn ŝiajn ŝatatajn florojn." (daŭrigota)

は、本誌の読者であれば自ら購入するのが、いわゆる agrabla devo だと思うので、それはしない。

ひとつだけ、事実のあやまりを記しておく、<ジュリー藤尾>らに云々というのは、<ジュリー伊藤>である。この三浦信夫さんが、<若い頃、『プロレタリアE講座でEを知る>という事実があったればこそ、大映映画の『ジャン・有馬の襲撃』(1959)に、エスペラントが架空の国イペリアの国語として採用されたことが分かる。

ことほどさように、この事典は、いもづる式に読んでいけば、興味津々、一生楽しめる本となっている。

なお、余談ながら、上記のように、人名索引に出てくるところ以外にも、藤本達生の名は出てくるのである。

kolofono には、エスペラントでは、Biografia leksikono とあるが、英語では、Who was Who となっている。

< under the supervision by Mine Yositaka >のところは、< sub kontrolo >とある。

多くの人たちの協力があつたとはいえ、これだけの仕事を完成された三人の方々には、ひたすら感謝の他はない。

おそらく数年後には再版が出ることと思うが、それまでに読者から寄せられる訂正等がたくさんあることを願って、すいせんのことばとする。エスペラント運動の底力がよく出た基本図書である。

ハンガリー、セルビアで

市川 晋平 (京都府)

Saluton, geamikoj!! 新米エスペランティストの市川晋平です。5度目の旅行記です。早いものでこれが最終回となります。この旅行記が皆様のお役に立っていましたら光栄です。

さて、今回はフィンランドでのエスペラント旅行について書き綴らせていただきました。

今回は、その後のハンガリー、セルビアのできごとについて書いていきたいと思ひます。

先のスロバキアでの Somera Esperanto-Studado ののち、僕はハンガリーの Győr (カタカナではジュールですが、ハンガリー語の Gy はジとギの間くらいの発音。ジュールだと絶対通じません!) という街で、バゴーさんというエスペランティストに泊めてもらうことになっていました。奥様と、大学生の娘さん、高校生の息子さんの4人家族の方でした。なんとこの娘さんと息子さんは自然にエスペラントを習得していった denaska esperantisto で、僕を交えて話をするときは家族同士でごく自然にエスペラントが飛び交うような状態でした。あまりにも自然で、母国語と変わらないような印象を受けました。やはりエスペラントが言語として扱いやすいから母国語と同じように話すのも比較的楽なのでしょう。この数日後に、ハンガリーで Internacia Junulara Semajno というイベントがあったのですが、娘さんと息子さんはその代表者としてイベントを運営していました。若い人が活発なのはよいことです。このときは参加できませんでしたが、いつか参加してみたいですね。そのほか、料理を教してもらったり (エスペラントでレシピもいただきました!)、どんな音楽を聞いているのか教えてもらったり。ドロンブという変わった楽器も見せてくれました。日本語では口琴というのですが、びよんびよんと面白い音色でした。滞在させてもらったのは数日間でしたが、非常に楽しい時間を過ごせました。

ハンガリーの次はセルビアに行きました。セルビアでは、バーチュカ・トボラという町の近くに住むチョーケさんのご家族のところに泊まらせていただきました。待ち合わせは最寄りの駅で、だったので、セルビアの列車は遅れるのが当たり前のように

で、結局1時間半ほど予定の時間を過ぎてしまいました。それでも待っていてくれたチョーケさん。セルビアならではの? かもしれませんが、こんなところにも優しさを感じました。ここは子供が3人いる5人家族の一家だったのですが、家族との会話をよくよく聞いてみると、セルビア語ではなくハンガリー語でした。ええ? と思いましたが、尋ねてみるとやっぱりハンガリー人の家庭でした。チョーケさん一家が住む、マリ・イジョシュという小さい町は、人口のほとんどがハンガリー人らしく、学校もハンガリー語で教えているみたいです。でも街中に出ると、当たり前ですが、セルビア語に溢れているので少し不自由しそうでなと思いました。でも逆に考えるとこんなに身近に異文化の環境がごろごろしているのは刺激になっていいかも、なんてことも思いました。なんでこんなことになってるかといひますと、まあ不勉強なものであまり詳しくはないのですが、この地域は歴史的に色々な国が領土を取ったり取り返したりを繰り返していた地域らしく、その結果各国の民族もモザイク状に散らばってしまったとか。

さてさてここでの体験としましては、到着するなりグヤーシュという豪快なハンガリー伝統料理をいただいたり、スポティツァという町で他のエスペランティストさんに会わせていただいたり、奥さんの働いているサマースクールらしきところを見学させていただいたり。どれも普通の観光ではなかなか体験しにくいことばかりでした。その他、次の行き先について親身になって手助けしていただいたりと、本当に親切な方々でした。

この後、しばらくして日本に戻るようになったわけですが、エスペラントを通じて出会った人々は総じて親切で本当に楽しい思い出ばかりです。エスペラントについて、効用などをつらつらと長々と語るようなことは、やれと言われればいくらでもやりたいですが、しかし、そんなことよりも理屈抜きにして、とりあえず自分でエスペラントを使ってみて、いろいろなことを感じるのが、一番シンプルで楽しいエスペラントとの接し方だと思ひました。ぜひ、皆様もエスペラントを使って素敵な体験をしてください!!

それでは、短い間でしたが、ご愛読ありがとうございました。

Do, ni certe revidos nin denove!! Ĝis!!



La 101-a Japana Esperanto-Kongreso en Obama

La 11-a, 12-a, 13-a de oktobro, 2014 第101回日本エスペラント大会 (福井県小浜市)

日時：2014年10月11日(土)、12日(日)、13日(月・祝)

会場：小浜市中央公民館、小浜市働く婦人の家、小浜商工会館(小浜商工会議所)
(いずれも小浜市大手町) TEL:(市外局番0770) 左から53-1111, 52-7002, 52-1040

主催：一般財団法人日本エスペラント協会、福井エスペラント会

協力：関西エスペラント連盟、北陸エスペラント連盟

後援：(申請予定先) 独立行政法人国際交流基金、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、
一般社団法人日本ペンクラブ、福井県、福井県教育委員会、福井県国際交流協会、
小浜市、小浜市教育委員会、NHK、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、
中日新聞、福井新聞、日刊福井、福井放送、福井テレビ、チャンネルO

ここ若狭地方は、古代にあっては「御食国」とよばれ、奈良の都へ海の幸を供給した地であり、その中心地小浜市は「鯖街道」を通して京の都とつながっており、今も「食のまちづくり」を推進し、子どもたちへの「食育」を提唱しているところでもあります。

また、若狭は古代には朝鮮半島からの渡来人にとっての玄関口の一つですが、小浜市には、100年前に嵐に遭い遭難した半島からの漂流民を救助した歴史が残っています。

そして、現代の若狭には日本一原発が集中し、大都市の集まる関西地方へ電力エネルギーを供給する役割を果たしてきましたが、小浜市には今も原発はありません。

一方、文化的には奈良・京都の影響から仏教寺院も多く「海のある奈良」とも呼ばれていますし、近世では杉田玄白が少年時を過ごし、幕末の志士梅田雲浜や夭折の歌人山川登美子の生まれ育った地でもあります。

地理的にみて福井県の海岸線は、北部が隆起によって生まれた越前海岸に対し、南部の若狭は沈降して出来たりヤス式で、国定公園の美しい海岸線を見ることが出来ます。

日頃は訪れる機会も少ないであろう「若狭・おばま」に、ぜひお越し下さい。

大会テーマ “海を越えて響き合う” 一食と自然と友好と一

地球上の生命の源であると同時に大切な食べ物の供給地でもある「海」、この「海」を越えて人々は交流を続け、独自の文化を培ってきた。この母なる「海」を汚してなるものか。若狭で自然を考えたい。

- ・連絡先：日本エスペラント大会事務局 一般財団法人日本エスペラント協会内
〒162-0042東京都新宿区早稲田12-3 メール：jek14o@jei.or.jp お問い合わせは主にメールで
TEL:03-3203-4581 FAX:03-3203-4582、ホームページ：http://www.jei.or.jp
- ・参加申込みは、[郵便振替 00100-4-400372 日本エスペラント大会]へ。
- ・現地連絡先：北川昭二 917-0241福井県小浜市遠敷7-113-2 TEL:0770-56-0189, 090-7087-9793

----- 主なプログラム -----

- 10月11日(土) 午前～午後 大会前観光(～2:30) 受付(中央公民館で1:00～)
午後(2:40～) 入門講習 検定試験、地方会交流会 分科会 小講演
夕 親睦の夕べ(歌、余興、他)
- 10月12日(日) 午前 開会式 公開講演(磯部晶策) 公開コンサート(野田淳子) 写真
午後 公開講演(韓国青年) 小講演 分科会 JEI総会 アジア活動
夕 懇親会(Bankedo)(各民宿にて) 映画
- 10月13日(月) 午前 公開番組(鼎談:Arko+3人) 分科会 小講演 閉会式(～12:00)
午後 大会後観光(12:30～)

【公開番組】「食」に関する講演:「食品の品質や安全性の盲点」食文化研究家 いそべしろうさく 磯部晶 策氏

磯部氏はE-istoでこの分野の著名人。食の安全について、言葉の面を含め、お話しいただく。

「自然」に関する鼎談:「若狭から考える地球環境とエネルギーの未来」

京大原子炉実験所助教 こいでひろあき 小出裕章氏<交渉中>、上智大学教授 木村護郎クリストフ氏、京都大学大学院生 西野ひかる氏。冒頭で中国のArko博士に中国における最新の環境事情をEsp.で報告していただく。

「友好」に関する講演:「韓国の若者から見る日本(仮題)」韓国青年<交渉中>

公開ミニコンサート:E-istoの歌手、野田淳子さんに歌ってもらう。

【小講演等】([] 内は用語) ①、②は小浜市民、③～⑤は外国人 [E]

- ① なかじまつえん 明通寺住職 中嶋哲演氏「小浜市になぜ原発がないか」 [E]
② おおもりかずよし 元小学校長 大森和良氏「韓国船遭難救助の記録の発掘」[大会記念出版関連] [日]
③ ウエンシヤン LIN Wenxian さん(金沢市在住中国人) ④ ユヘーロ Juhelo さん(黒部市在住カナダ人)
⑤ ハンス アドリアーンセ Hans Adriaanse さん(オランダ人)<交渉中>

大会記念出版1 絵本・エス訳『風の吹いてきた村』(ノンフィクション・韓国船遭難救護の記録)

今から100年以上前、日韓併合直前の1900年、ロシアの港を出航した韓国の商船が嵐に遭遇して難破。日本海(東海)を何日か漂ったのちに福井県は小浜市のはずれの小さな漁村に漂着。村人たち総出で避難民93人の救護に当たり、1週間後、元気を取り戻した彼らを半島のふるさとへと送り返したという物語。その後埋もれていた日韓友好のこの歴史的事実が近年発掘され、本として出版された。

政治的には日本が韓国を植民地支配をしようと半島へ乗り出していた時代に、庶民レベルでは民族の違いを越えて温かい血を通わせていた友好の歴史を活写している。今回は原作を簡略化し、新たな絵を加えて小学生向けの絵本として再構成。それを翻訳してエスペラント本として出版。

大会記念出版2 『福井エスペラント運動の歴史』

【宿泊斡旋】 民宿の申し込み受付は8月末まで

大会による斡旋は阿納地区の民宿だけです。民宿を希望しない方は他(会場近くにホテルや旅館がある)は各自で手配願います。懇親会(Bankedo)は全体では行わず、2日目(12日)の夕食時に民宿ごとに行います。1日目(11日)の夕食は普通食ですが、2日目は宴会食(含ふぐ料理)となります。懇親会を希望しない方は2日目は民宿を申し込まないで下さい。なお、民宿に泊まらず懇親会だけの参加は可ですが、別途申込みが必要です。民宿選定と部屋割りは実行委にお任せ願います。同宿・同室希望の方はお申し出を(ただし、家族単位は不可)。民宿での料理は魚料理が基本です。菜食主義への対応は状況により異なります。

大会参加費など 注：下記の料金は4月の消費税改定での変更はありません（単位は円）

参加費	期限→	3月末	7月末	8月～	備考（○印は記念品・報告書あり）
① 一般		5,000	6,000	7,000	○
② 障害者		3,000			○
③ 家族		2,000	3,000	4,000	記念品希望者は①でお申し込みください
④ 青年・留学生		2,000	3,000		○（青年は2014年内に30歳になる人まで。生年月日を記入！（留学生は、日本に留学している外国籍の人）
⑤ 青年・留学生			2,000		
⑥ 中学・高校生		1,000	1,500		単独参加者の場合は○あり
⑦ 小学生以下		無料			
⑧ 外国から		2,000			○ 高校生以下は⑥⑦でお申込みください
⑨ 不在参加		3,000			○ 実参加に切り替えは差額（申込日の額）追加
⑩ 記念写真		1,000			最終日にお渡しします。各自お持ち帰り下さい。
⑪ 昼食 12日（日）		950			菜食可 近く（徒歩5分）に「食のまつり」屋台村あり
⑫ 宿泊A 11日（土）		8,000			民宿（1泊2食）
⑬ 宿泊B 12日（日）		12,000			民宿（1泊2食）【当日は懇親会（飲料代別）参加が条件】
⑭ 懇親会のみ参加		6,000			会場は阿納の民宿（飲料代別）
⑮ 大会前観光A B C		3,000			希望コース（A B C）を記入！ 参加者少数は中止
⑯ 大会後観光D		25,000			入場料等含む 少数中止 芦原温泉は一流ホテル泊
⑰ 大会後観光E		17,000			同上（前2つ）、川魚料理旅館泊
⑱ 大会後観光F		4,000			萌叡塾（ほうえいじゅく）宿泊者の交通費
⑲ JEI学力検定試験		1級5,000 / 2級3,000 / 3級2,000 / 4級1,000 / 新テスト500			

取り消し条件 ①～⑨の参加費は原則としてお返しできません。⑩～⑱の費用は、9月末までに限り、返金手数料500円を控除し返金します。ただし、観光が中止の場合は全額返金します。

交通（小浜へのアクセス）について（お勧めの方法）

下図の☆印は大会前観光の出発点

■JR線利用〔東日本方面〕

東海道新幹線の「ひかり」を使い、米原駅で北陸本線の特急「しらすぎ」に乗り換え30分。敦賀駅で小浜線に乗り換え約1時間。

〔関西方面、西日本方面〕

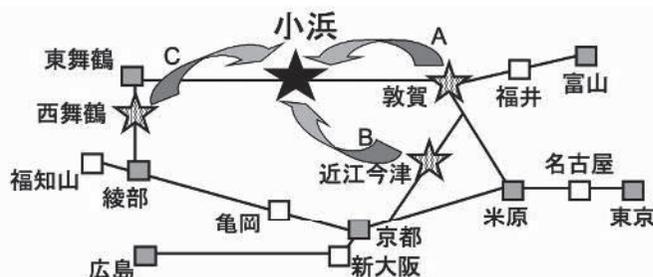
a. 京都駅から湖西線を使い、近江今津駅下車。JRバスに乗り換え約1時間。

b. 京都駅から山陰本線を使い、綾部駅で舞鶴線に乗り換え東舞鶴へ。再度小浜線に乗り換え約1時間。〔北陸・山陰方面は省略〕

■バス単独利用。a. 大阪あべの発、大阪空港（伊丹）・舞鶴経由。b. 京都発、舞鶴経由。

■航空機＋バス利用。大阪空港（伊丹）から上記aのバスを利用。約2時間半。

■高速道路利用。舞鶴若狭自動車道（敦賀小浜間は今夏の開通予定）小浜ICで下車、会場へ5分。



観光について 申し込み受付は8月末まで 詳しくは『エスペラント』2014年1月号をご覧ください。

【大会前】 A：北陸線・敦賀駅12:10発：レインボーライン B：湖西線・近江今津駅12:10発：熊川宿、明通寺 C：舞鶴線・西舞鶴駅11:30発：五老岳、一滴文庫

【大会中】蘇洞門遊覧、小浜市内の(国宝)古寺めぐり、お初の菩提寺(常高寺)・墓所。他。

【大会後】D：東尋坊、永平寺、（芦原温泉泊）E：一乗谷朝倉遺跡、萌叡塾、永平寺、（川魚料理旅館泊）近くに恐竜博物館あり F：萌叡塾（自給自足の生活塾）体験（泊）

La 101-a Japana Esperanto-Kongreso en Obama en la gubernio Fukui

Dato: la 11-a, 12-a kaj 13-a de oktobro, 2014

Kongresejo: La centra civitana domo, La domo por laborvirinoj, La komerca domo.

Kongresa Temo: *Ni akordu trans la Maro – manĝo, naturo, amikiĝo –*

Ĉefaj programeroj

La 11-an de oktobro (sabate)

Antaŭtagmeze-Posttagmeze: Antaŭkongresetoj.

Posttagmeze: Akceptejo. (de 14h40) Fakkunsidoj, Ekzameno, Kurso, Prelegoj.

Vespere: Amika Vespero.

La 12-an de oktobro (dimanĉe)

Antaŭtagmeze: Inaŭguro, Publika Prelego, Koncerto, Fakkunsidoj, Komuna Fotado.

Posttagmeze: Publika Prelego, Fakkunsidoj, Ĝenerala kunsido de JEI, Azia Agado.

Vespere: Bankedo ĉe ĉiuj vilaĝloĝejoj.

La 13-an de oktobro (lunde)

Antaŭtagmeze: Fakkunsidoj, Publika Prelego, Ferma Soleno (ĝis 12h00).

Posttagmeze: Ekiro al Postkongreso (kun 1 tranokto).

Memoraĵo: Bildlibro pri historia okazaĵo: *"La vilaĝo, al kiu la vento blovis"*.

Kotizoj: Eksterlandano venonta el ekster Japanio: 2 000 enoj.

Loĝanto plenaĝula en Japanio: 5 000 enoj (ĝis la 31a, marto, 2014),

6 000 enoj (ĝis la 31a, julio, 2014), 7 000 enoj (post la 1a, aŭgusto, 2014).

Pri ceteraj kotizoj (handikapulo, familiano, junulo, alilanda studanto, lernanto, morala partopreno), demandu al Japana Esperanto-Instituto (vidu sube).

Loĝado: jek14o@jei.or.jp / vilaĝloĝejoj rezerveblaj. Aliaj hoteloj prezentotaj.

Antaŭkongresetoj: buse el la stacidomoj Tsuruga, Oumi-Imazu, aŭ el Niŝi-Maizuru.

Postkongresoj: al Tooĝinboo kaj Eiheiĝi, Iĉiĝoodani kaj Eiheiĝi, aŭ al Houeiĝuku

Komuna Foto: 1 000 enoj.

Lunĉo: la 12-an de oktobro, 950 enoj. Alie, proksime okazos la Festo de Manĝo.

Pri la urbo Obama, vidu: [https://eo.wikipedia.org/wiki/Obama_\(Japanio\)](https://eo.wikipedia.org/wiki/Obama_(Japanio))

Pri plidetalaj informoj, havu kontakton kun **Japana Esperanto-Instituto.**

JP-162-0042 Tōkyō-to Sinzyuku-ku Waseda-mati 12-3, retadreso: jek14o@jei.or.jp,
telefono: +81-3-3203-4581, fakso: +81-3-3203-4582 retejo: <http://www.jei.or.jp>

El “Japanaj Malnovaj Rakontoj”
de YANAGITA Kunio
柳田國男作「日本の昔話」より (4)

Kial la marakvo estas sala?

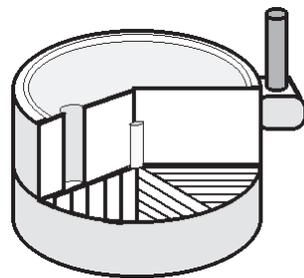
(海の水はなぜ鹹(から)い)

Longe, longe, tre longe antaŭe, vivis ie du fratoj. La riĉa estis la pli aĝa kaj la malriĉa la pli juna. Eĉ ĉe la fino de la jaro ĉi tiu ne povis prepari por la morgaŭa novjara festo, kaj vizitis sian fraton por pripeti pruntedonon de unu ŝoo da rizo, tiu tamen donis al li neniom krom riproĉaj vortoj. Jam ne sciante kion fari, foriris la pli juna. Revenvoje en monto li vidis maljunulon kun neĝe blanka barbo, kiu kolektas brullignojn.

Kien vi iras? Demandis la maljunulo. Kvankam hodiaŭ estas la fino de la jaro, li respondis, mi havas neniom da rizo por oferi al la Dio de la Jaro, kaj sencele nur vagadis tiel. Vi do devas esti embarasita, mi donos al vi ĉi tion, kaj la maljunulo transdonis al li malgrandan manĵuon el tritiko, kun la jena instrukcio: Iru al la jaŝiro en tiu arbaro, kiun ni nun vidas antaŭ ni, kun tiu manĵuo; malantaŭ la jaŝiro troviĝas kavo, kie estas multe da gnomoj, kiuj certe deziras vian manĵuon; tiam vi devas insisti, ke vi interŝanĝos ĝin nek por mono nek por aliaj objektoj, sed nur por la ŝtona manmuelilo, ĝis fine vi ricevos la deziratan.

Alveninte la menciitan jaŝiron en la arbaro, li ja trovis la kavon, kie svarmas multe da gnomoj jen enirante jen elirante kaj multe tumultas. Li miris kion ili faras, kaj vidis ke ili aŭ falas aŭ glitas pro la penado movi nur unu kanon. Nu, lasu min porti ĝin, li diris kaj forportis ĝin pinĉante per la fingroj. Tiam li aŭdis ĉe la enirejo de la kavo voĉeton tiel mallaŭtan kiel zumon de moskito: Murdisto, murdisto! Li surprizita atente trarigardis, kaj trovis inter la dentoj de sia getao unu

gnomon premita, kiun li tuj elprenis kun skrupulo. Kia fortega giganto! En admiro ili apenaŭ rigardis supren, kiam ili trovis la tritikan manĵuon



en lia mano. Nepre ĝin donu al ni, ili diris kaj metis antaŭ lin amason da oro kun la peto de interŝanĝoj, ĉi tiu tamen insistis laŭ la instruo de la maljunulo, ke li povas interŝanĝi ĝin nur por ŝtona manmuelilo, kaj fine akiris ĝin. Kvankam ĉi tio estas nekompareble valora trezoro eĉ por la gnomoj, ili diris, ni donos ĝin al vi interŝanĝe por la manĵuo; kiam vi turnos ĝin dekstren, ĝi elmetos kion ajn laŭ via plaĉo, kaj se maldekstren, ĝi ĉesos elmeti.

Garde tenante ĝin en la brakoj, li revenis hejmen, kie atendis senpacience la edzino. Ŝi tedis lin per la demandoj: Kie vi vagaĉis en ĉi jarfina vespero? Ĉu vi sukcesis pruntepreni rizon? Fermu vian buŝon, li diris, kaj sternu al mi muŝiron! Kaj sur la sternitan muŝiron li metis la muelileton kaj ĝin turnis dekstren kun la vortoj: Elvenu rizo, elvenu rizo! Kaj tiam rizo elvenis toon post too. Sekve elvenu salmo! Li diris, kaj aperis grandaj salitaj salmoj unu post aliaj. Poste li eltiris ĉiajn necesajn objektojn sinsekve, kaj ili pasigis neesprimeble feliĉan jarfinon, kaj sin kuŝigis.

Kiam venis la mateno de la novjaro, li diris: ĉar mi subite fariĝis tia ĉoĵo, jam ne decas, ke mi restu lui flankdometon, kiel ĝis nun; unue mi konstruu novan domon. Kaj, turninte la muelilon, li eligis luksan domon, kun tenejo, longa kvin kenojn kaj larĝa tri kenojn, kaj servistan domon, stalon kaj sep ĉevalojn por brede tie. Poste li aperigis jen moĉiojn, jen sakeon, kaj pretigis festeni invitante ĉiujn najbarojn kaj parencojn. Vilaĝanoj invititaj venis kun mirego, kaj estis regalitaj per tiaj bongustaĵoj, kiajn ili ĝis tiam neniam spertis.

Estis invitita ankaŭ lia pli aĝa frato, kiu ne pruntedonis al li unu ŝoon da rizo, Kaj ĉar li ne povis deteni sin de la scivolemo, kial la plijuna fariĝis tia riĉulo en la daŭro de unu nokto, li kun miro ĉirkaŭatentis kaj ŝtelrigardis, ke la frato turnas la muelilon en sekreta angulo kun la vortoj: Aperu sukeraĵoj, aperu sukeraĵoj, por ke mi donu al la gastoj ĉe ilia foriro! Jen la kaŭzo kuŝas, li nun komprenis, ja en tiu muelilo!

Tiun vesperon, post kiam ĉiuj gastoj foriris kaj la pli juna frato kaj lia edzino endormiĝis profunde, la pli aĝa nerimarkite eniris kaj forŝtelis la ŝtonan muelilon el la sekreta ĉambro. Interalie li ankaŭ ŝtelis moĉiojn kaj sukeraĵojn, kiuj kuŝis apude, kaj alvenis marbordon, kie bonŝance troviĝis boato. Li metis la trezoran muelilon en la boaton, malligis la ŝnuron kaj ekremis formaren. Li intencis alnavigi iun insulon kaj tie sola fariĝi granda ĉoĵo. Sed li forgesis meti ion salan en la boaton, kvankam li ŝargis ĝin per dolĉaĵoj, kiel moĉioj kaj sukeraĵoj.

Antaŭ ĉio do mi eligu salon, li turnis fervore la muelilon kun la vortoj: Aperu salo, aperu salo! Ho, kiel ĝi elvenas kaj elvenas! Ĝi tuj pleniĝis la boaton. Kvankam li jam deziris ĉesigi, li tamen ne sciis turni maldekstren la muelilon por ĉesigi, kaj salo ĉiam ankoraŭ pli aperadis, kaj fine pro ties pezo la boato, la pli aĝa frato kaj la ŝtelita muelilo, ĉiuj kune mergiĝis. Kaj ĉar neniu ankoraŭ turnis la muelilon maldekstren, ĝi sur la fundo de la maro turniĝadas nur salon elmetante. Jen kial, oni diras, la marakvo estas tiel sala.

(Sakamoto syōzi)

- ☆ ĉoĵo: riĉulo
- ☆ keno: 1,8 metroj.
- ☆ manĵuo: japana dolĉaĵo
- ☆ moĉio: mola manĝaĵo el rizo
- ☆ ŝoo: 1,8 litroj
- ☆ too: dekonon de kokuo, ĉ. 18 litroj.



エスペラント歌曲CD

"Tagiĝo"

國井 兵太郎 (山形県)

山形エスペラントクラブからこのほど歌曲のCDを発行しました。収録した歌曲はご存じの

タギージョをはじめとした14曲で、ハイネの詩にシューベルトが作曲した"海辺にて"、ハイネの詩にメンデルスゾーンが作曲した"歌の翼"、同じくハイネの詩にシューマンが作曲した"二人の擲(てき)弾兵"、イングランド民謡"グリーンズリーブス"、アイルランド民謡"ダニーボーイ"、ボスニア民謡"ベンバシャの村へ行ったとき"、北原白秋作詞中山晋平作曲"砂山"等です。もちろん全てエスペラント語で歌われています。

歌って頂いたのは山形でプロのオペラ歌手として活躍しておられ、山形大学の教授を務めておられる藤野祐一氏です。歌曲の選択を初め、全体の編集をしたのは、歌集の発行もしておられる磯部晶策氏で、歌詞カードの中で全曲に同氏の解説が付いています。

そのほか磯部氏の指導で食品の品質向上のための活動をしているさらど協同組合の方々には全面的な協力をいただきました。きれいな録音をするのに、周囲の音を遮断した防音室が必要で、楽器屋さんなどで有料で借りることは可能ですが、今回は、この組合員の造り酒屋さんの紹介で、今は博物館となっている昔の酒蔵を使わせていただきました。伴奏のピアノもそこにあるものを使いました。

機材を持ち込んで録音し、CDを作る業者も組合の方が紹介してくれました。酒蔵は残響が多い部屋だったようですが、歌と伴奏、残響を別々に録音し、後でほどよく調整し、CDにしてくれました。ラベルのデザインも、組合専属のデザイナーの方が、夜明けの雰囲気をもっと出して描いてくれました。エスペランティストでない藤野氏の発音の正確さについては、プロのオペラ歌手ですのでドイツ語やイタリア語などヨーロッパの言語には慣れておられる上、晩餐会で何度も歌っているので、録音の際にいつも立ち会った磯部氏も、あまり直すところはなかったと言っていました。

エスペラント読書大相撲に参加して

松本 緑 (大阪府)

数年前、私は忘れえぬ本と出遭った。恩師に薦められて Eija Salovaara 著 “Kie boacoj vagadas” を読み始めたとき、ラップランドの厳しい冬景色が、眼前に豊かな色彩でもって広がり、私の読書欲をかきたてた。2日で読み終え、充実した読後感を味わった。しかし、その後、私の読書生活は不振に陥った。“Kie boacoj vagadas” のような表現豊かな本になかなか出遭うことが出来なかったのだ。私は文学を渴望し、エスペラントで書かれた小説を涉猟したが、どれも途中で読むのをやめてしまった。

そんな時に、堀泰雄氏が主宰する「エスペラント読書大相撲」に出遭った。読書が進捗していなかった私は、まさきに飛びつき、積読してあった Johan Hammond Rosbach 著 “Unumane” を読むことにした。読書が不調だったときに買い、読むのを一度は挫折した本だったが、読書大相撲に参加し、自らに義務を課し、自分との闘いの中で、読んでいくと、その本を読むことが次第に面白くなってきたのだ。人との関係においても、親しくなると、第一印象とは違って好感が持てるようになることはよくあることだ。私は、“Unumane” を読んでいく過程で、その中に描かれた思春期の少女の心の細やかな機微の表現に心動かされた。また、同じ籠で暮らしていた2羽の小鳥のうち1羽の死後、孤独に耐えられなくなり、飛ぶ力を失ったもう1羽の小鳥を飼い主の少年が不憫に思い、殺す直前の葛藤の心理描写には深い悲哀を感じた。

読書大相撲では、一日に読むページ数を決め、その「約束」を守れたかどうか、堀氏をはじめ、他の協力者に報告するのだが、私はその本の魅力にとりつかれ、毎日予め決めたページ数を超えて読むようになった。第26回エスペラント大相撲には、スイスの小学生8人が参加し、驚くべきことに、全員が全勝した。興味深いエピソードを紹介しよう。その小学生のうちの8歳の女の子が本を学校に置き忘れ、大泣きし、困った母親が学校に該当ページをファクスで送ってもらい、その女の子はその日の「約束」を守り、ついに全勝した。私も、エスペラント大相撲と出遭わなければ、“Unumane” の真価を知ることではできなかったと思う。

La Movado 758

関西大会「子どもの交流広場」

木谷 奉子 (徳島県)

岡山の原田扶佐子さんが、指導する中高生と姫路大会に参加するとお聞きして、鳴門の子どもたちにも呼びかけて、いっしょに参加することにしました。

エスペラントのよさは、やはり交流で友だちの輪を広げることです。鳴門の子どもたちは、スカイプや文通で外国の友だちと楽しく交流していますが、その場かぎりで終わり、エスペラントを学習しようとする意欲はなかなか高まりません。他の地方の子どもたちと交流できれば、身近なところで仲間を広げることが体感できるはずだと考えています。

「子どもの交流広場」は、“Saluton!” の挨拶をかけあうだけで仲間意識がめげえ、友だちになれるふしぎな国際語「エスペラント」を使うあそびの場です。もちろん、外国からの参加者にも加わってもらいますが、難しい言葉の知識は要りません。友だちになりたいという気持ちがあれば、友情の輪をどんどん広げられます。はじめからエスペラントの学習に興味を持っている子どもたちはあまりいないかと思えます。平等で公平な仲間の輪をつくりたい、あるいはそんな輪に入りたいと思っている子たちがいれば、ぜひ誘ってあげてください。

大会1日目、5月31日(土)の午後1時から2時45分まで。①ゲーム「エスペラントで友だちになろう」、②ロシアの子どもと「スカイプで交流」などを計画しています。小学高学年・中学生・高校生で、外国に関心があり、ローマ字の読み書きができれば十分です。子どもの参加は無料です。

これを契機に、交流の輪が広がり、子どもたちの学習熱が高まることを期待しています。

お問い合わせは、kitani7@hotmail.com へ。

Salono の原稿を募集しています。日本語でもエスペラントでも可。長さは原則として半ページ(日本語の場合は23文字×40行)以内、経験談やご意見などをご投稿ください。あて先は奥付の住所または lamovado@gmail.com へ。

Taglibro de Anne Frank 2800 円

完全版に基づく新訳(1997年、日本で出版)

Anne Frank ne estas de hieraŭ 650 円

アンネの生涯を描いた物語(オランダ語からの訳)

Vortaro por Lernantoj — Laŭlum

139

sidi: 1 Resti kun la postaĵo sur seĝo, benko ks.
2 Havi bonan aŭ malbonan aspekton (de vesto sur iu): La mantelo bone *sidas* al li.

*Sur mia kapo sidas ĉapo,
Kaj mi mem sidas sur kanapo.
Sur tablo staras vekhorloĝo,
Kaj sur la muro pendas mapo.*

signo: Io ajn sensebla uzata por elvoki ideon pri alia afero, ekkoni, rekoni, diveni, supozi aŭ antaŭvidi ion.

*La ruĝo estas signo de danĝero,
La verdo estas signo de espero,
La nigro estas signo de funebro,
La bluo estas signo de libero.*

silenti: 1 Ne paroli, krei ktp.: *sci* elokventi, *sci* ankaŭ *silenti*. 2 Ne paroli pri io, ne diskuti: Kiu pri ŝtelo *silentas*, tiu ŝtelon konsentas. 3 Sin ne montri: Kie regas forto, tie rajto *silentas*.

*Silento,
Konsento.
Sen pretendo,
Do kontento.*

simila: Ne tute sama, sed kun iuj ecoj samaj.

*Akveron similas akvero,
Ne forkon similas kulero.
Ne tigron similas leono.
Diablon similis Hitlero.*

simpla: 1 Konsistanta el unu sola aŭ malmultaj elementoj: *simpla* aparato. 2 Facile komprenebla, solvebla: *simpla* problemo. 3 Nura: *simpla* mensogo. 4 Senornama, senluksa: vivi *simplan* vivon.

*Jen estas simpla frazo:
"Ĉi tio estas nazo."
Nazo havas truojn,
Ĝi ne estas vazo.*

ワン・ワールド・フェスティバルに出展

木元 靖浩 (KLEG 組織部)

かねてお知らせのように2月1・2日に近鉄上本町駅南の「国際交流センター」で行われた「国際協力のお祭り ワン・ワールド・フェスティバル」へのKLEGの出展は盛況のうちに終わりました。

ブースのサイズは幅1.8メートル。左右の仕切りは0.9メートルづつ、従って、A0サイズの紙4枚相当のこじんまりとしたものですが、一時は身動きもとれないほど大勢が訪れ、1000枚準備したチラシも2日ですべて配り終えました。

イベント名称に沿った関心を抱いている来訪者がほとんどなので、エスペラントの紹介は非常に手ごたえのあるものでした。エスペランチストもKLEG関係者であるなしにかかわらず大勢来訪し、説明役になってくれました。これはインターネットとツイッターの効果も大きいようです。ツイッターや友人などに情報拡散して下さった方、ありがとうございました。エスペランチストだけでも瞬間的には10名くらい居たでしょうか。初対面の者も含め、ブース前はあたかもエスペランチストのrendevuejoの観もありました。実行委員会事務局に販売委託した40冊のエスペラント図書は、4冊売れました。

このたびの出展はKLEGとしては初めてのものでした。まずは、経験してからと考へ、物品販売はしない、寄付は募らない、クイズラリーには参加しない(クイズを出して、ポイントをあげることはしない)、「ワークショップ・セミナー・講演会」には参加しない、こととしましたが、今年の経験を経て来年は更に手広く参加したいなど考えています。それだけに今年より更に準備を積んだものにしなければなりません。皆様のご協力をお願いします。



第 63 回関東エスペラント大会

6月7日(土) 8日(日)に深川江戸資料館レク・ホールで開催される。関西大会と共同で、インドネシアのレザ・パーレヴィーさんを招待する。

第 47 回エスペラントセミナー

5月の連休、夢の島で

恒例の全国合宿 Esperanto-Seminario が5月3日(土)～5日(月)に、東京スポーツ文化館 BumB (江東区夢の島)で行われる。予定されているクラスは初級・中級・上級・自主クラスで、講師は村松伸哉さん、アレクサンドラ綿貫さん、藤巻謙一さん、山川修一さん。参加費は25000円、遠隔地割引・障害者割引がある。問い合わせは日本エスペラント協会へ。申込書は公式サイトからもダウンロードできる。「エスペラントセミナー」「2014」で検索)

[←セミナー公式サイト]

第 27 回みどりの学校

5月2日(金)～6日(火)、信州高遠青年の家で開催される。問い合わせはエスペラント通信社(東京都世田谷区南鳥山2-8、1-1104)へ。

[←『エスペラントの世界』2014年1-2月号]

アンドレイ・コロベイニコフ来日予定

ロシアのピアニストでエスペランティストのアンドレイ・コロベイニコフが日本で演奏会をもつ。終演後の交流会も計画されている。現在決まっている日程は次のとおり。

6月29日(日)

府中市 府中グリーンプラザ内 けやきホール

7月5日(土)

大阪市中央区 いずみホール

(日本センチュリー交響楽団「四季コンサート・夏」に出演) [←菊島和子]

ロンドの活動

和歌山緑丘会

1月28日、絵本「稲むらの火 浜口吾稜のはなし」15冊を田辺市教育委員会に寄贈した。緑丘会も参加している「わかやま絵本の会」が発行したも

ので、日本語・英語・エスペラントの3言語で書かれ、第61回関西エスペラント大会の記念品にもなった。後日、田辺市教育長から礼状が届けられた。中学校で新たな防災教育が始まるため、教材として使用すること。 [←江川治邦]

福岡エスペラント会

2013年3月から、一日講習会を毎月続けている。この2月は16日に実施した。会場は福岡市天神のイムズビル、講師は橋口成幸さんと武藤たつこさん。日本エスペラント協会発行「国際語エスペラントへの招待」を用意し、受講生の興味や関心を聞きながら話をした。受講したのは若い女性2人で、ひとりとは新聞のお知らせ、もうひとりとは友人に聞いての参加だった。 [武藤たつこ]

京都エスペラント会

2月11日にエスペラント会館で年次総会を行った。出席者は13人。午前中は、1月4日にNHK-Eテレで放映された舞台中継「イーハトーボの劇列車」のことや、アニメ「サカサマのパテマ」の主題歌がエスペラントで歌われていることについて報告があった。午後は議事に入り、昨年度の活動報告、今年度の講習会などの計画、役員改選を行った。また、2015年の関西エスペラント大会を京都で引き受けることが決まった。

また、2月12日の例会に、ベトナムからの留学生 Tran Thuy Linh さんが出席した。

[←機関紙「事務局通信」]

KER 試験受験者募集

今年のKER試験は、5月17日(土)に開催されます。受験希望者が最低受験者数(5名)より多ければ、KLEG事務所で試験を受けられるように準備したいと考えています。ご自身又は周りで受験を希望している方はいませんか。いるようなら、受験希望者名とその方のメールアドレスかファクス番号、受験クラスを教えてくださいませんか。調査結果は、3月25日までにメール(esperanto@kleg.jp)かファクス(06-6841-1955)でKLEG事務所内KLEG教育部まで、ご連絡ください。 (KLEG教育部)
編集部注: KER試験については1月号p.16を参照してください。

Vortkruca enigmo

Redakcio

Vicigu adekvate 9 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun steleto. Tiam vi akiros eventon, al kiu oni kunvenas por lerni ion.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de aprilo en 2014. al la adreso sur la lasta paĝo aŭ al lamovado@gimail.com.

Rimarko: (x) signifas, ke la vorto ne portas finaĵon.

1	2	3	4	*		5	6	7	8
9	*					10			*
		11			12	*			
13					14			15	
		16	17		*		18		
19						20			
		21			22		23		24
			*						
	25					*		26	
27							28		*

Horizontale: 1. Trakci-maŝino, kiu trenas vagonojn.(x) 9. Oni parolas ~an lingvon en Irako, Egiptio kaj aliaj.(x) 10. Magneto tiras ~n kaj nikelon. 11. Kafo estas en taso kaj kuko estas sur ~o.(x) 13. ♪ ~ la mondo iras forta voko. (La Espero).(x) 14. arb~o, vort~o, kant~o.(x) 15. Rusio estas ~ plej vasta lando en la mondo.(x) 16. Mi deziras al vi bonan ~on.(x) 18. En ĉi tiu vintro multe ~is en Japanio.(x) 19. La soldatoj marŝis laŭ la ~o de muziko.(x) 21. La kopiilo ne funkcias kaj oni bezonas ~i ĝin.(x) 25. En la dosierujo estas ~oj pri la lasta kongreso.(x) 27. Trinkajo maldormiga.(x) 28. La rivero troviĝas ĉe la lando~o inter Usono kaj Meksiko.(x)

Vertikale: 1. Skatola lumigilo kun surfaco papera aŭ vitra. 2. Valora metalo.(x) 3. Okazis

~o en la 11-a de marto 2011.(x) 4. Dresita hundo ~as sian mastron.(x) 5. *Kain* ~is grenon kaj *Habel* ~is ŝafon.(el Malnova Testamento) (x) 6 La tria planedo de la sunsistemo.(x) 7. Ĉu via laboro ~as bone?(x) 8. Mi ~os al Francio okaze de la centa Universla Kongreso.(x) 12. Haroj de ŝafo, utiligataj por vestaĵoj.(x) 15. ~u multajn librojn, kaj vi progresos en la lingvo. (x) 17. ~o proksima ol parenco malproksima.(x) 20. *Tolstoj* estas ~a verkisto.(x) 22. ~a aero kaj ~a akvo estas trezoro sur la Tero. 23. Trajno iras sur ~oj.(x) 24. Mallongigo de posttagmezo. (x) 25. Kiom ~ membroj havas la societo?(x) 26. Mi kaj vi, mi kaj li, mi kaj ŝi, mi kaj ili.(x)

La solvo al la februara enigmo:

LULKANTO

La ĝustan solvon donis 8 legantoj: CA, Kacu, 平井倭佐子, 中村文雄, 武藤たつこ, 水渡篤子, 西千寿子, 荻原克己

E	K	Z	E	M	P	L	E	R
K	I	E	L		S	I		O
S	U	B		S	I	M	I	
P		R	E		K		N	I
L	A		K	E		I	D	E
O	P	O	R	T	U	N		L
D	A		A		M	E	Z	
	R	A		N	G		R	E
E	T	N		E	S	T	I	M

楽しい作文教室6月号課題 (4月20日締切)

- ①彼らは列車で姫路へ行った。
- ②お城は駅の北にある。
- ③お城まで歩いて15分かかる。
- ④大会会場はお城への道の途中にある。

(ヒント) 列車 trajno、駅 stacidomo、大会会場 kongresejo、途中で survoje。necesi, piede を調べましょう。日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先:

[郵送] 〒674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811
塚本 猛

[電子メール] c_tak@esperanto.ne.jp
(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。

Mikspoto (当欄は敬称略)

☆ 富田武『シベリア抑留者たちの戦後 冷戦下の世論と運動 1945 - 56年』(人文書院、2013)の「抑留の語り部たち」の「高杉一郎」の項に、高杉について「当時のエスペ란ティストの常として言葉に対する感受性が豊かで、国際的な感覚も身につけていた」とあり、さらに「高杉には『スターリン獄中のエスペラント』という短いエッセイがある」などである。 [←後藤斉]

☆ 野間秀樹編『韓国・朝鮮の知を読む』(クオン、2014年)に、後藤斉によるエスペランティストの大島義夫、李鐘永、大山時雄等に関する記述があり、「文章中に挙げたエスペランティストの経歴や参考文献は、『日本エスペラント運動人名事典』を参照」と。同書には、李仲琦(イ・ジュンギ)による「世界エスペラント運動に寄与したアジア人」と題した世界エスペラント協会の会長であった李鐘永(イ・ジョンヨン)の追悼文集の紹介も。 [←後藤斉]

☆ 岡和田晃編『向井豊昭傑作集 飛ぶくしゃみ』(未来社、2月)に、エッセー「エスペラントという理想」とエスペラントから翻訳されたベンチック・ヴィルモシュ(Vilmos Benczik)の短編小説「シャーマンの死」(Morto de Šanek)が収録されている。編者の解説「近代、アイヌ、エスペラントーあらゆる境界の解体を目指して」には、これらについても詳しい記述があり、「年譜」の最後には、『日本エスペラント運動人名事典』に「向井豊昭」の項があることも。 [←峰芳隆]

☆ 井上ひさし『イーハトーボの劇列車』(こまつ座第101回公演)が1月4日NHK-Eテレの劇場中継で。劇中、尾行の刑事にエスペラントの手ほどきをする場面で、賢治の発する"Kiu vi estas?"という問いかけは、この戯曲における重要なセリフになっている。なお、この作品の初演は1980年。また、『日本エスペラント運動人名事典』には「井上ひさし」の項がある。 [←峰芳隆]

☆ 少し旧聞になるが、天沢退二郎・金子務・鈴木貞美編『宮澤賢治イーハトヴ学事典』(弘文堂、2010年)に佐藤竜一「エスペラントの思想」。

[←峰芳隆]

☆ 柳田国男著、柄谷行人編『「小さきもの」の思想』(文芸学藝ライブラリー、2月)の「第四章『「大

正デモクラシー』を担う』の「ジュネーブの思い出」には、国際連盟におけるエスペラント公認案への言及があり、その「解題」に、「ジュネーブでの経験から、柳田は、将来の普遍言語として、エスペラントに望みを託すようになった」などあり、また、「第一章 文学と柳田国男」の「解題」にも「(彼は)エスペラント普及運動家でもあった」とある。

[←後藤斉]

☆ 方正(ほうまさ)友好交流の会会報『星火方正』16号に、大類善啓の「国際主義を超えて HOMARANISMO を!」の記事。4ページにわたって、人類主義とエスペラントについて書かれている。 [←大類善啓]

☆ 2月13日付『紀伊民報』に、『防災教育に使って 和歌山エスペラント会、田辺市教委に絵本贈る』の記事。『稲むらの火 浜口吾陵のはなし』15冊を寄贈したことが写真入で。日本語の原文に英語とエスペラント訳を加えた本という説明がある。

[←江川治邦]

KLEG 事務局だより

★「図書目録2014」を作成しました。本誌と一緒に発送しますが、追加をご希望の方は、お知らせください。

★KLEGの青年会員の対象は、35歳未満(4月1日現在)です。個人会員の場合は、年間会費4400円が2200円になります。 Rond に所属する方は、Rondにお問い合せください。

★3月29日(土)は、10時から棚卸しを行います。お手伝いいただける方は、事前に事務局にご連絡ください。(再)

楽しい作文教室(34) 成績

17名の方から応募がありました。()内は留意事項です。

うん、良いね: 水渡, kiri, ikona, M.H., Ivajo, AG, Fumi, CA, alfa.

良いね: Drako, T.Ku, ヒー坊, Ćielo, Dalp pengji, Eiko, festo(dum), Yo(rivelo).

もうひといき: 無し。

がんばろう: 無し。

キラリ賞: Dalp pengji(③)。



★ 新刊・新着 ★

Kanji kaj Amane, familiaj rakontoj 400円
文芸コンクール1位受賞作を中心にした堀泰雄の最新作。「かんじ」と「あまね」は主人公の子どもたち。ふたりを中心に日々の生活での出会いや発見を描く。写真やイラストも多数。章末には理解を深める問題があり、輪読などにも好適。A4判、32p.

発見! エスペラント 魅惑の言語 105円
ILEI 発行の "Malkovru Esperanton - fascina lingvo" の日本語版。エスペラントの基礎知識、どのように活用されているのか、よくある疑問や質問への答などエスペラントの魅力を紹介。B5判、23p.

Tagiĝo(KD) 2100円
オペラ歌手藤野祐一が輝かしいバリトンでエスペラント歌曲を歌う(小平圭亮伴奏)。収録曲: La Tagiĝo、海辺にて、歌の翼に、二人の擲弾兵、グリーン・スリーブス、ダニー・ボーイ、ハラマ河の谷、ベンバシヤの村へ行ったとき、塹壕の中にて、ロモンドの湖、愛して已まじ、砂山、別れの歌、懐かしき緑の星よ。磯部晶策編集、山形エスペラントクラブ発行。

★ 再入荷 ★

Punkuino kaj aliaj nepalaj rakontoj 900円
Razen Manandharが集めたネパールの民話25編。Punkuinoは登場する少女の名前。土居智江子監修。

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

★ 在庫から ★

エスペラント会話教室 1000円
竹内義一の原著をタニヒロユキが改訂。会話表現の文例が多数。「会話のための分類単語集」も便利。
まずはこれだけエスペラント語 1575円
渡辺克義著。CD音読の綿貫アレクサンドラは関西大会でエスペラント講演を行う予定。

柳田国男・新渡戸稲造・宮沢賢治 エスペラントをめぐる 735円
岡村民夫「ジュネーヴの柳田国男」他。関西大会で民俗学者橋弘文が柳田に関する講演を行う予定。

Raportoj el Japanio 16 1300円
堀泰雄による日本の〈いま〉を世界へ伝えるレポート集最新刊。2012年3月以降の被災地を活写。

世界の旅人堀さんの気ままエッセー3 1200円
愛読者の多い堀泰雄の好評エッセー集第3巻。東日本大震災被災地の訪問記などを収録。

エスペラントと平和の条件 1100円
寺島俊穂著。「グローバル化と言語民主主義」など地球時代のエスペラントの可能性を説く論考集。

Malkovru Esperanton - fascina lingvo 250円
上記『発見! エスペラント』のエスペラント版。

編集ノート



☆2月号では寺島俊穂さんに“Flugoranĝo rakontas”の書評をいただきましたが、この号では同じ本について津田昌夫さんが書いてくださいました。それぞれ違った面から作品の解説をしていただくのも、有意義と思います。(相川節子)

発行所:ラ・モバード社 編集:小西 岳 発行人:北 さとり 定価280円 送料60円 1年3800円 送料共本
局:一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204
電話(06)6841-1928 ファクス専用(06)6841-1955 電子メール:esperanto@kleg.jp
振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ: http://kleg.jp
九州支局:九州エスペラント連盟内 818-0105 福岡県太宰府市都府楼南2-8-7 武藤たつこ方 電話(092)923-2877
中国四国支局:中国四国エスペラント連盟内 734-0041 広島市南区黄金山町7-15 忍岡守隆方 電話(082)286-2745
印刷人:村 上 治 道 621-0815 京都府亀岡市古世町北古世82-3 株式会社 天声社